

厚真町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

厚真町は南北に細長く、市街地が2つ存在するほか、郊外に集落が点在する構造となっており、移動手段が確保できない交通空白地域が存在し、また、高齢化の進展や核家族化の進行等により、バス利用が困難となっている高齢者の増加や外出手段の選択肢が少ないことなどの問題が顕在化している。さらに、買物や通院等の日常生活に必要な移動について、隣接都市である苫小牧市や千歳市への移動も多く、都市間バス（地域間幹線バス路線）との円滑な接続も課題となっている。誰もがいつまでも安心して暮らすために必要な、持続可能な移動サービスを確保していく必要がある。

地域公共交通の現況

- JR日高本線（浜厚真駅）
- あつまバス株式会社（9路線）
- 道南バス株式会社（町内経由2路線）
- デマンド交通めぐるくん（3路線）
- スクールバス（7路線）

生活交通確保維持改善計画の目標

- <目標>
- デマンド交通利用者を8,000人/年以上とする。
 - デマンド交通の収支率を4.0%以上とする。
- <効果>
- 町内における公共交通を維持することにより、高齢者等の買い物・通院等の生活に係る移動を確保することができる。
 - 地域間幹線系統との接続により広域的な移動を支援することができる。

協議会開催状況

- 令和6年6月21日第44回協議会を開催
 - ・令和7年度地域内フィーダー系統確保維持計画について
- 令和6年6月21日第44回協議会を開催
 - ・令和7年度地域内フィーダー系統確保維持計画について
- 令和6年12月13日第45回協議会を開催
 - ・令和6年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について
- 令和7年3月27日第46回協議会を開催
 - ・令和6年度事業報告について
 - ・令和6年度収支決算報告（見込）及び会計監査報告について
 - ・令和7年度予算（案）について
- 令和7年6月18日第47回協議会を開催
 - ・令和8年度地域内フィーダー系統確保維持計画について
 - ・共創モデル実証運行事業について
- 令和7年11月12日第48回協議会を開催
 - ・令和7年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について

令和7年度事業概要

町内全域を3系統に分け、交通不便地域と中心市街地及び地域間幹線系統（苫小牧線・千歳線）を結ぶデマンド型運行を行った。7人乗り車両1台と15人乗り車両2台を、オペレーターによる配車とAI配車システムを併用し効率的に運用した。

3系統 ①北部地区線 ②市街地線 ③南部地区線

令和7年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

- 令和7年4月に厚真町公共交通ガイドブック（改訂版）を全戸配布した。
- 利用者からの要望を受け、利便性向上に向けた取組（予約に応じて一部路線の運行時間を18時まで延長）を行った。
- 令和7年4月に、町内の中学生及びその保護者に対する説明会を開催した。

2) 運行系統

1 市街地線

厚真市街地内を移動するための路線です。

運行区域	厚真市街地
乗降場所	厚真市街地の希望場所
運行時間	9:00~16:00(時間内いつでも)

2 北部地区線

北部地区内と厚真市街地内を移動するための路線です。

運行区域	北部地域(厚真市街地を含む)
乗降場所	北部地域と厚真市街地の希望場所
運行時間	午前2便、午後2便の4便

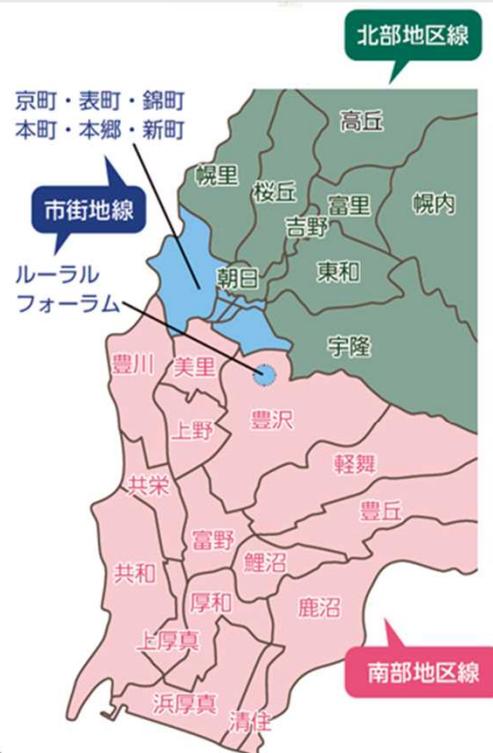
3 南部地区線

南部地区内と厚真市街地内を移動するための路線です。

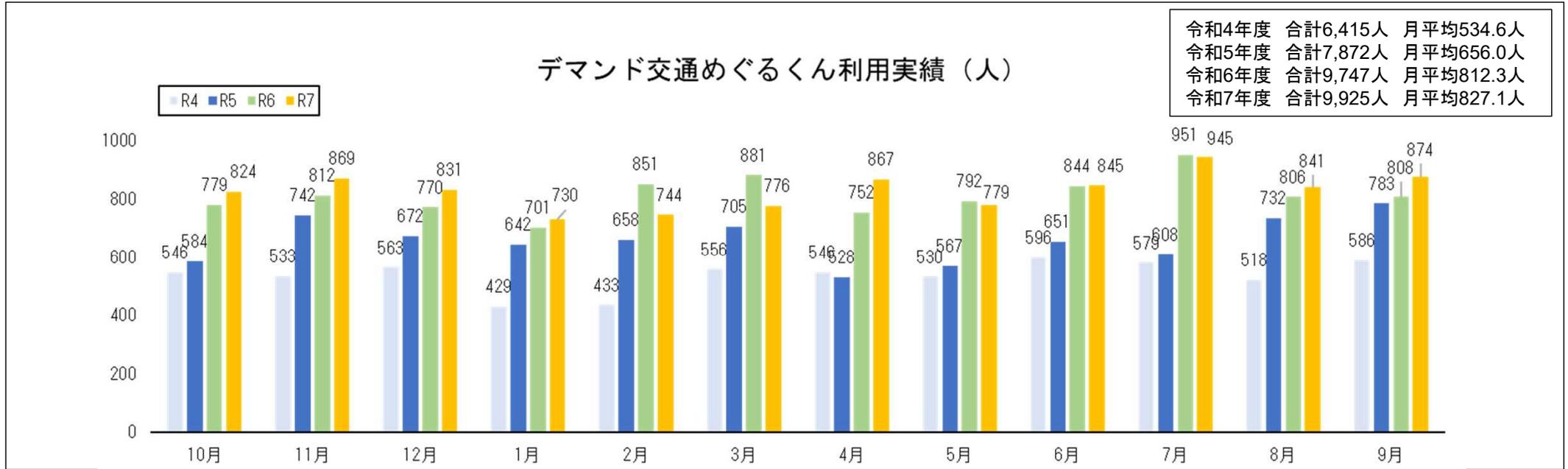
運行区域	南部地域(厚真市街地を含む)
乗降場所	南部地域と厚真市街地の希望場所
運行時間	午前2便、午後2便の4便

※運行区域をまたぐ移動は乗り換えが必要です。

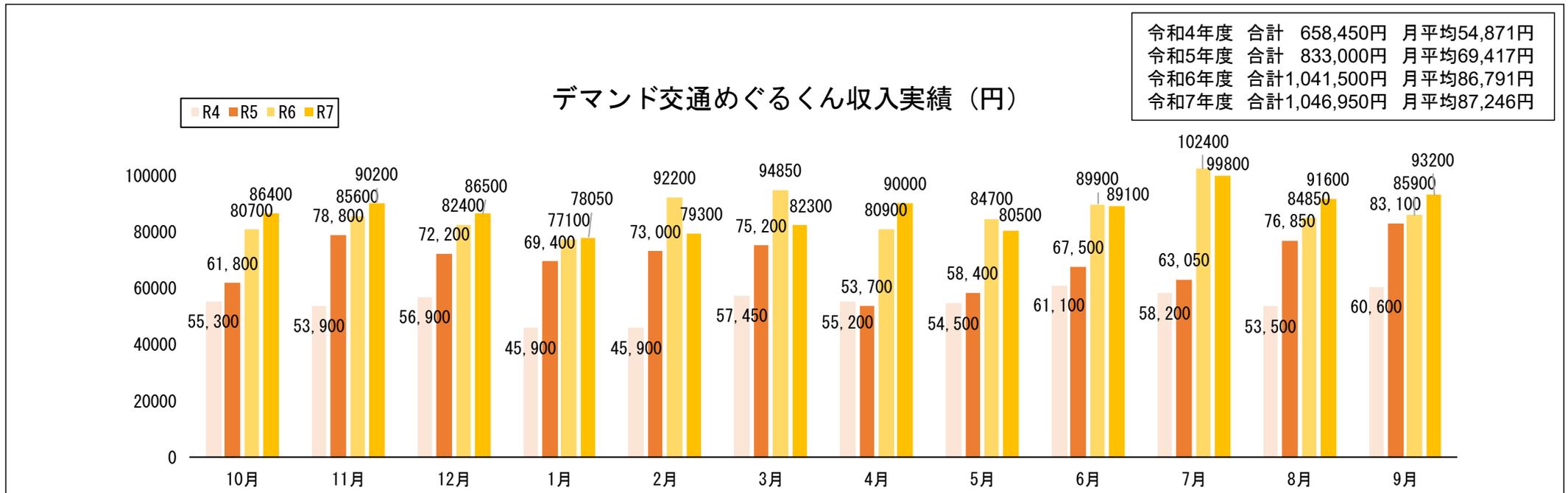
(例) 幌内(北部地区)から上厚真(南部地区)に行きたい場合は、市街地で乗り換えてください。また、それぞれに利用料金をお支払いください。



3) 利用実績



4) 収入実績



5) 事業実施の適切性

3 系統

- ①北部地区線 月～土曜日 1日4回運行（3 1 1日）
- ②市街地線 月～土曜日 1日4回運行（3 1 1日）
- ③南部地区線 月～土曜日 1日4回運行（3 1 1日）

予約時間 午前8時から午後7時まで

事業計画は計画どおり適切に実施された。

7) 事業の今後の改善点

- 利用状況の分析を進め、運行エリアや配車方法等の見直しにより、更に効率的な運行形態を追求する。
- 時間延長等のサービス向上や物価高騰等の影響を考慮しながら、利用料金の値上げを検討していく。
- 広報紙以外にも、あらゆる媒体を通じて積極的に周知活動を行くるとともに、わかりやすい情報提供を行い、更なる利用促進を図っていく。
- 利用者増加に伴い、予約時に時間調整や、場合によっては断る時例が生じてきたことから、事業者との連携を密にし、必要に応じて早期に対策検討へ移行する。

6) 目標・効果達成状況

デマンド交通の目標利用者数8,000人/年に対し、利用実績は9,925人/年だった。また、目標収支率4%以上に対し、実績収支率は4.33%であり、いずれにおいても目標を達成することができた。

利用者数が増加した理由として、中学生以下の児童生徒及びその保護者へのデマンド交通の認知度向上、部活動の合同練習の増加により、若年層の利用者が増加したことが要因として考えられる。

一方で、収支率は目標とする4%を達成したが、前年度比0.27ポイントマイナス（R6収支率：4.6%）となった。

8) 地方運輸局等における二次評価結果

- ・自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- ・前年に比べ収支率がマイナスになったものの、いずれも目標を上回っており、今後も地域公共交通計画に基づき、利用促進策の取組を継続することを期待する。
- ・持続可能な公共交通を維持する観点から、公的負担額といった事業効率の改善につながる目標を設定することもご検討いただきたい。